

塾教育の礎を築いた先生方に感謝!

日本民間教育大賞選定会議 主催

日本民間教育大賞授賞式、盛大に開催される

1月23日(木)、東京・神保町の学士会館において、日本民間教育大賞選定会議主催の日本民間教育大賞授賞式が盛大に開かれた。学習塾業界広域10団体が協力して創設した「日本民間教育大賞」は、民間教育とりわけ塾教育の発展に寄与された満75歳以上の業界関係者を対象とする「民間教育最高功労賞」と、故人を対象とする「民間教育特別功労賞」の2分野から成る。

公募された候補者を対象に厳正な審査の末選ばれた受賞者の方々は、それぞれ同賞選定会議委員から賞状と壺を受け取り、受賞の喜びの言葉を述べた。

日本民間教育大賞選定会議《委員》(団体50音順)

- 的場一成 学習塾公開企業協議会 会長
- 後田多純寿 (NPO)学習塾全国連合協議会 全国会長
- 豊川正弘 私塾協議会 会長
- 坂田義勝 私塾協同組合連合会 理事長
- 安藤大作 (公益社団法人)全国学習塾協会 会長

- 森貞孝 全国学習塾協同組合 理事長
- 田中敏勝 (NPO)全国教育ボランティアの会 理事長
- 湯口兼司 全日本私塾教育ネットワーク 理事長
- 増澤空 (一般社団法人)日本青少年育成協会 会長
- 森本一 民間教育連盟 会長

- 顧問 大島九州男 参議院議員
- 顧問 渡辺美知太郎 参議院議員

民間教育最高功労賞を受賞された3名の先生方と1編集委員会(3名)

受賞理由

学習塾業界初の専門誌を発行して業界の発展に尽くした功績、および埼玉県を中心とする地域の民間教育の発展に寄与した功績。

受賞のご感想

こんな素晴らしい賞をいただけるとはまったく思っていませんでした。今年で

満90歳ですが、私が教材に関わっていた昭和49年頃はまだまだ塾は社会的に認知されておりませんでした。これではいけないと思ひ、塾の情報誌

を出版しました。そのうち、現在の教育はこのままでいいのだろうかと思うようになり、様々な活動を行うようになりました。塾出身の下村博文先生が文部科学大臣になり、塾が社会的に広



く認められるようになったことは本当に嬉しい限りです。ありがとうございます。ありがとうございました。

塾業界へのアドバイスとメッセージ

難関大学をめざす受験生がほんのひと握りしかいなくなってしまうように思います。以前は、自分の今の状況から何とか抜け出そうとする人たちが大勢いました。子どもの数も減り、今は中堅塾が一番苦しいのではないのでしょうか。「人間性をどう育てるのか」ということが、これからの塾に与えられた課題ではないかと思ひます。公教育に

はできない、民間教育だからこそできることは何なのか、それを追求していただきたいと思ひます。



略歴

1923年静岡県生まれ。
1974年『私塾ジャーナル』を創刊、1982年「松原学院」(現マインズ)の経営に参加、現在に至る。





故・西坂 眞美 先生
(寺小屋グループ前代表)

受賞理由
四国を中心とする地域の民間教育の発展に寄与した功績、並びに塾関係者の勉強会「コア21（のちにJウエブ）」を主宰し、民間教育界の後進の育成に寄与した功績。

— 受賞のご感想 —

寺小屋グループ、西坂和恵代表
本日は故人に對しまして特別功労賞を賜りまして、まことにありがとうございます。故人は大変シャイな面



『学習塾百年の歴史・塾団体五十年史』編集委員会
監修：中嶋浩一先生／橋大学名誉教授
編集長：佐藤勇治先生／調布学園代表
副編集長：菅谷友豊香先生／慶應受験会代表

受賞理由
6年の歳月を費やし、160名に上る執筆者を得て、塾と塾団体の歴史を克明に後世に残す大著を完成させた功績。

— 受賞のご感想 —

佐藤 勇治 編集長
このような素晴らしい賞をいただき、ありがとうございます。平成17年に『学習塾百年の歴史・塾団体五十年史』をつくらうと決意し、足かけ6年、中嶋先生、菅谷先生の応援を得て、昨年の4月5日に1170ページ、写真900枚掲載のものを2000部発行することができました。中嶋先生とは40年来のお付き合いです。東大の助手で三鷹の天文台に勤めていた頃、調布学園を訪ね、「子どもたちに星を見せてあげたい。天文教室をや



りたいんだ」と言っていました。その後中嶋先生は一橋大学教授、そして今は名誉教授になられました。その間学習塾のために、

の全社員に対して「頑張れよ、きちんとバトンを渡していけよ」というエールでもあるように感じております。今後とも、どうぞご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。

— 塾業界へのアドバイスとメッセージ —

西坂和恵代表
四国は人口が減少し、全国の中でも高齢化が非常に進んでいるエリアです。その中で今後の塾運営をどうしていくかは、地方の塾の共通した課題だと思います。教育再生実行会議からはいろいろな提案が出ております。



そういう子どもたちの学びの変化に對して、地元に着目して、私たちならではの提案を送り出していけるかどうか、ここが大切なポイントだと考えております。私たちは来年度を36年目とし、新しい形を模索していく1年目にしようと考えております。

略歴
1950年愛媛県生まれ。1979年に愛媛県松山市にて「寺小屋」を創設。以降28年間に「寺小屋グループ」として愛媛県、香川県、沖縄県に教場を展開。2006年10月没。享年56歳。



鳥海 十児 先生
(朝日学園グループ 学園長)

受賞理由
全国初にして同時に塾業界初の株式会社立の学校を設立して、民間教育界の基盤の広さ、充実度を世に知らしめた功績。

— 受賞のご感想 —

今でも私がこのような賞をいただいているのだろつかという気持ちでいっぱいです。昭和50年に朝日塾を立ち上げ、その後幼稚園をつくり、小学校をつくり、中学校をつ



法人では認められなかったので、特区制度を利用して株式会社で中学校、高等学校をつくり、それが学校法人の中等教育学校に

なりました。そして今年の9月には単位制・通信制の高等学校をまた新設します。ここまで来られたのは、本当にたくさんの方々が後押ししてくださったおかげだと思っております。今後は教育内容をさらに充実させると同時に、塾業界のために尽力させていただきたいと思っております。どうかこれからもよろしくお願ひ申し上げます。

— 塾業界へのアドバイスとメッセージ —

今後の塾業界の大変さは、やはり子ども数の減少に伴うことが多いと思います。しかし、



子どもの数がゼロになることはありませんから、その子どもたち、そして保護者いかに支持してもらおうことができるかを考えていけばいいと思います。私は「前を向いて努力すれば何とかなる」という信条を持っていますが、とにかく前を見て進んでほしいと思います。

略歴
1934年京都府生まれ。1975年「朝日塾」創設、1981年「朝日塾幼稚園」、1993年「朝日塾小学校」、2004年「朝日塾中学校」、2007年「朝日塾高等学校」（両校は2011年、「学校法人みつ朝日学園朝日塾中等教育学校」に移行）を設立。



池田 弘 先生
(池田教育ゼミナール学園長)

受賞理由
鹿児島県を中心とする地域の民間教育の発展に寄与した功績。

— 感動受賞 —

御礼に変えて

しんとした教室の生徒の様子をうかがったとき、1人の生徒の顔が赤い。近寄ると驚きだ。すごい高熱でありながらじっと耐えている。急がせてタクシーに乗せ「自宅で休むよう」指示して帰宅させた。30分ほど経ったとき、教室の入口が開く。先ほどの高熱の生徒が入ってきて自分の席に座ると続きの勉強を始めた。

「家に帰って床をとって寝ようとしたが、教室の友人たちの姿が浮かんで来て……」彼はマスクの顔を引き締めながら懸命に課題と取り組み続けた。

片道2時間。学校の授業が済むとそのままバスの中でパンを食べながら塾へ通う生徒がいた。帰りはまたバスの中、そこで復習をする。運転免許を持たない父親が、いつの頃からか運転をして自家用車で通うようになった。彼は見事ラ・サールに合格。合格の報告に父親・母親も一緒に来られる。そのとき、ふと、バスから自家用車に変わり、その

免許とりたての父親の運転車に変わり、その車にいつも母親も乗っていたことを思い出して「お父さん、運転に慣れないので心配されて、いつも同乗されて……」と野暮な質問をしてしまった。

「いいえ……」母親はにっこり笑われて、「往復4時間、息子が必死で頑張っている姿に応援の乗車を続けました。この1年、おかげさまで私もまだたくさん的人生勉強をさせていただきませんでした……」母親の話に父親もうなずきながら言った。「先生、今日から、私たち一家、また新しいスクラムです!!」



代理で受賞した英進館(株)取締役・高井克彦氏

多くの生徒から、多くの父母から、多くの感動をもらった。その感動が私塾、「池田教育ゼミナール」の原点であることには間違いない。今回の賞もどにかい感動です。

略歴
1930年鹿児島県生まれ。1974年「池田教育ゼミナール」創設、1986年、塾が1からつくった学校として全国初の「池田学園池田中学校」を設立、1991年「池田高等学校」を設立、1995年「池田小学校」を設立。